

平成30年度第2回阿南町総合教育会議議事録

日 時：平成30年12月17日（月） 15時30分から17時00分

場 所：阿南町役場第一会議室

平成30年度第2回阿南町総合教育会議次第

- 1 開 会 総務課長
- 2 あいさつ
 - (1) 町長
 - (2) 教育長
- 3 意見交換
 - (1) 小規模学校・少人数学級における教育環境のあり方について
 - ①教育環境のあり方検討委員会の先にあるパブリックコメント
 - ②近隣村とのあり方
 - (2) 2020年に向けたICT教育環境のあり方について
- 4 懇談
平成31予算編成について（お願い）
- 5 その他
- 6 閉 会 総務課長

《出席構成員》

町 長	勝 野 一 成
教育長	南 嶋 俊 三
教育長職務代理	金 田 修
教育委員	猪 切 信 子
教育委員	大 倉 康 生
教育委員	林 一 仁

《欠席構成員》

なし

《事務局》

総務課長	松 澤 享
総務課行政係長	伊 藤 恒

《出席職員》

教育委員会事務局長	岡 田 六 久
〃 子ども教育係長	村 山 俊 行
〃 社会教育係長	大 平 正 章

1 開 会

○ 松澤総務課長

それでは遅れまして申し訳ありません。定刻を過ぎておりますけれども、ただ今から平成30年度第2回目となります阿南町総合教育会議を始めさせていただきます。

司会進行の方は、私の方で進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。初めに町長あいさつをお願いします。

2 あいさつ

○ 勝野町長

今日午前中門原川を這い回って、5000歩以上歩いてもうぐらぐらでいる。

総合教育会議という事ですが、今教育そのもののことは皆さんで一生懸命やってくれていますが、町の状況から言いますと、新たにICTで毎年数千万がいる。そして、あと2日すると保育園から小中学校まで約2億の金がいる。今年度はとても繰越がでない中で、交付税も使い果たすという話です。それから財政的にも非常に厳しくなり、今日も門原川から千木沢一帯を這い回ったわけですが、これから水道水の水の供給ができなくなる。

それは、大下条の水の供給に和合からポンプアップで、年間数千万で電気料を使って揚げておりますが、そして不足する分を千木沢の方からもらっておりますが、厳しい難所を引っ張ってきている中では、もう維持管理ができなくなるだろうな。水そのものの管理をする皆さんではなくて、現況の地形を維持して行くことができなくなる。私が40年前歩いた同じルートなんですけど、まるっきり様子を変えておりまして、ショックを受けて5000歩を歩いて来たんですが、ここからまた水の供給を、長い間維持して行くことは無理なんだろうなと見てきました。

そうすると今度は、水が送れない所となると、水の無い所に人は住むところでないとなりますので、大変な話になっていくなあと考えております。

財政もそういうことで厳しくなり、「教育環境」のようにまた新しいことがどんどん必要とされてくる。これからどういう運営をしていけばいいのかなあと、正直言って悩んで居るところでございます。そういう中で教育もいろいろ問題がある訳ですが、そういった意味では、少人数の学校についての統合も、早く統合を進めなきゃいけないなと、財政問題ばかりでなくて、これでは子どもを育てれないという両方の面があると思っておりますので、この問題は早く少しでも進めたいと思っている。そういった面も含めまして、教育委員会の皆さんには、ご意見をいただかにかんアと思っておりますので、そんなことをあいさつ申し上げて、簡単ではありますがあいさつとさせていただきます。今日はお世話になりますが、よろしくお願いします。

○ 松澤総務課長

続きまして、南嶋教育長からあいさつをお願いします。

○ 南嶋教育長

先ほどのお話のように、2回目の総合教育会議ということで、お集りをいただきましてありがとうございます。

この総合教育会議も平成27年から始まりまして4年になる訳ですが、その4年の中で総合教育会議は町長さんとの懇談もできるその意味を見ますと、教育との意思疎通ができて非常に意義ある会議かなあと考えています。年々そんな話を続けまして、やはり教育の気密性に重きを置きながら、今年度などは今のお話のように、非常に教育にお金をかけていただいております。そして昨年度からですが、教育環境のあり方について町長さんから諮問されて、いろいろ話がされてきてまた話しが出来ますが、一つの方向性が出るという話になってきておりますが、その答申に従って、教育委員会も一つの結論的なものを出していかなければならないなあと、思うところでございます。

先程のお金の話じゃないけれども、やっぱりエアコンから始まって、ICT、体育館の床張り、そういうようなところで金がかかって、この12月補正は教育委員会の補正みたいで、非常に感謝しているし、お金の無い中、申し訳ないなあと考えている。

先ほどのお話のように「あり方検討委員会」も進んできておりますので、この20日に結論

的なもの、方向的なものが出る訳でございます。いろいろ検討する中では、やはり保育園・小学校あたりはこのままで、中学校においては新しい教育環境を新しい方向へうち出していくんじゃないかなあとと思いますし、できれば私の気持ちであります、平成33年には中学校の学習指導要領が始まりますので、そこらへんを機会にできたらなあと私の気持ちはあります。いずれにしても、平成32年度まではいろいろな面でお金がかかって大変だと思いますけれども、後世の阿南町を担う子どもたちでございますので、後になって「あの時やっておけばよかったなあ」と後悔しないためにもお願いをしまして、あいさつに代えたいと思います。

○ 松澤総務課長

それでは、早速3の意見交換に移りたいと思いますが、時間の制約がございますので、5時前までには終了できるように、ご協力の方をよろしくお願いしたいと思います。

3の意見交換(1)の小規模校・少人数学級における教育環境のあり方について、教育委員会の事務局長の方からご説明を申し上げたいと思います。

○ 岡田教育委員会事務局長

ご苦勞様でございます。それでは資料説明をさせていただきます。

《「教育環境のあり方検討委員会」のまとめ 資料に基づいて説明》

○ 松澤総務課長

今、事務局長の方から説明をいただきましたが、この件についてご意見をいただきたいと思っています。

【意見】

- 答申の中で、小学校についてのところで、言わんとするところの「情報機器を活用し、個性を引き出す授業・教育を積極的に行い」という事は解るが、勉強ができるんだけどその一番の根幹をなす人間性とか、社会の中で生きていく人との関わり方とか、コミュニケーションとか、少人数ですと行くことが無理だということがはっきりしている。

社会へ出てからの勝負だ。何の新聞だったか、14歳くらいまでにそれが仕上がってしまうと書いてあった。勉強はできるかもしれない。勉強だけ出来れば社会で生きて行けるかということそうではない。その部分を気が付くというか、もう少し考えにゃいかんと思うし、そうでなくても今の社会はみんな、日本は裕福でおっとりしているので、ほんとに危機意識がなくなっておると思っている。水道の水の問題もそうだけど。

そうして考えると、「情報機器」も解るし、「授業・教育を積極的に行い」というのも解る。しかし人間にとって一番大切な部分の、そういったところが育って行かないというのは判り切ったことだ。そういう結論的なことが早くちっとでも大勢の中で、培って行かにならんというのが現状だと思う。それがこういった社会で、平和ボケしておって苦でない。そう俺は思っている。役場の職員自体もそうだ。今朝の信毎にも、タイでおそろしい教育を竹で作った学校やっとなるところが出ておった。全然違っちゃう、考えも育ちも。日本がこれだけ経済が発展してもあれだけのものは簡単にはできない。

これ真剣になって、阿南町から行った子どもはお粗末な様子になっちゃう。本当の話。そういうところが見えるなあという事が言える。それが早くから言う地域の衰退につながるという片や意見と、片やそうでなく育たなくなるという意見が対立してきている話だ。根幹は解っている。しかしいかにせん、地域の衰退なんて言っておれない。子どもが勉強をできんということを別にしても、社会に生きていけない人間ができちゃうという事にも匹敵してくる話だ。それを地域の衰退だと言っておれない。

- 町長の言ったことは、正にあり方検討委員会の中の最後のページの、もし町立中学校が統合した場合のメリット、デメリットを委員が出した中で、一番多かったのが「人間関係の広がり」ができるだろというメリットとして上げていて、やっぱりここを求めているんだなあというのを、委員会のなかでまとめたという事が証明されたので、これは地域のためじゃなくて子どもたちのためには、いち早く人間関係の広がりをさせてあげたいというのが大切なことだ。あとはデメリットの中に「地域・・・」が出てくるんですが、目の前の子どもたちにとって何が

いいかというのを、委員の皆さんはわかっているんだろうなと思いました。

- あのでかい教室に行ってみて、真ん中に3・4人がちょちょことおったって、まるで学校の体を成していない。
- 授業を見ていてかわいそう。4人とかしかいない授業で、意見対立というのは全くないし、子どもたちが四方に行ったときに、先生がそれを集約できるかというところではなくて、やはりいろんな人がいていろんな意見を、小学校1年生から戦わせなければいけない話だろうなというところがあるが、ただ小学校というのは地域にないといろんな意味で難しく、少なくとも中学は少しでも多くの人と出会わせたいなという事がある。
- そうだえらいことになる。阿南町の子が無気力や無感動のような子になっちゃう。
- これは答申案ということで、ここをこう直した方がいいというのは無いのかな。意見はいいのかな？
- それは、こう直せとかは言ってない。
- だから今日は、答申として出るから承知しておって欲しいということだら。
- 町長さんのおっしゃる通り、2つ目の星印の小学校のところで、人とのつながりとか何とかというのはあり方検討委員会のみんなが思っていることで、保護者・地域・学校間のつながり・交流連携を図りながらというのが人間形成に関わることで、あと後半が学力というように分けて、それでKJ法でまとめたのがこれという風にとってもらおうとありがたい。
- この答申案を今度の検討委員会で、「まとまりました。」「まとめてくれました。」と出します。これに対してあり方検討委員会で、「ここをどういう風に直したらいい。」と話し合い、最終的な答申を作っていく、町長に答申をする。ですので、この答申案をこの場に出したということは、「今度あり方検討会で話し合って、こんなような答申にまとまりそうです。」ということなんです。
- この「中学においては物理的・地域との関わりはなどで課題はあるものの」とは、どういう課題があるのか。遠いというだけか。中学校の3番目のやつは。物理的というのはそういうことだな。
- あと文化の違いというのが。学校が違えば新野とかは、お祭りとかそういう文化的な違いは大きいので、そういうのを簡単に言うとなデメリットの中にでて来る。
- そんなものは関われるんじゃないのか、雪まつりや何かも。
- そこは将来的に関わっていかなくちゃいけないところだし、今新野はお祭りに合わせて休みになったりするところがあるので。
- そういうことは統合したらできなくなるの。
- デメリットの中に入れているので、将来的にそのままでいいいけないので、そこはどうしていくかというのは学校の課題としてになると思う。
- 現状として問題があるけども、前進してやっていこうという部分です。
- それは問題なのかな。
- 問題とするかなんですけど、今現実として休みを祭りに合わせてあるのは新野だけだ。

- 個人で休めばいいし、そこらのお祭りでも休みにすればどうか。深見や粟野では休みにしないのか。
- 今だいたい土日にお祭を持ってきているので、新野の14・15日の対応くらいかな。
- 新野の雪まつりは絶対その日じゃないとダメだというもので。それだって2日ばかりのことじゃないか。
- それが学校が、地域の学校として休むかどうしますかというところで均衡を保って現状維持されているので、そこを将来的にどうなのかなという心配はありますということ。
- わからないんですが。子どもの置かれた環境を、より望まれたもののあるべき姿にと持って行く時に、地域のお祭って軽重を図るものなのか。新野の方にはすみませんがそういう気がする。お祭り無くなっていいとは言いません。新野のお祭り好きだし、盆踊りも小さい時から踊っていたが、だからといってこういう時にそれがあるからとか、時々出てくるが違和感がある。
- 祭りをやる人が確保できんということだ。
- そういうことなら、そう言う時に来ているお祭りなのかもしれない。遠山のお祭りかなんかは、あちこちから来た人がやっているでしょ。
- 時間の問題だと思うんだに俺も。そうなったらなった方向で物を考えていかにやらんくなる。
- 変える時期だと思うんです。
- 役場の職員もそうだが、一般町民の衆もそうだが、これは皆さんが想像しているよりかなりのスピードで衰退が進んでいる。昔十年一昔だったがそんなもんじゃなく、かなりのスピードで進んでいる。そう言う状況はなかなか平和ボケしていて感じていない。口では言うがエライことだと思って感じている。この一年一年がものすごい何といううか、ストレートやジャブを食らって急ピッチに落ちていく。
- 新しい考え方で、一中の方も一緒になって祭りのことを考えるような形に持っていければ最高の形なんだけど。ようするに阿南町の祭りとして、全部の中学生が考えていくという考え方で持って行ってもらえれば、また前進的な考え方になるんだが、そこまで行くのに時間がかかるかなあということ。
- 一中になった時というのはどうだったんですか。富草と和合と大下条が一緒になるというときはもめたんですか。俺は阿南第一中学の第1期生ですが、そのときは校舎も何もなかったですから。俺が卒業して2年後に校舎ができたんですから名前だけです。その頃にもめたと言う記憶は無いんですか。
- あったかもしれないけど、出来てしまえばという話で来ているんじゃないですか。
- 相当文化の違いがあるのか。行政区域が違ったんだから。
- 昔から頭で捉えてもらおうと、今の現況が、富草と大下条は小中尾の峠を越えれば1つだ。ここから富草も離れた感覚ではないし、つながると。ところが帯川から新野の上まで上がるといって別天地の別格なんだ。そういった意味では、三河・遠州からのつながりが強かったと思う。降りちゃうとそうでもなかった。そういう昔からの違いもあるな。そう言う色がついてきとると思っている。国道が開いたら一本化といったが出来なんだ。国道が開けば今だってそうだが、売木からバスが1本走りゃ終わりだに。国道沿いに20分だもんで。

- 確かに文化の違いというか、経済圏も含めた色が違うというのは、新野へ行くと愛知県川の色が「こんなに違うんだ。」と思った。豊根村という言葉はその頃初めて聞いた。知らなかった隣が豊根村だということを。
- 山一つだって恐ろしい檜が植わっている山を、あっちから植林することを教える先生がどんどん入ってきて新野まで来た。それで新野から愛知県側は檜の凄いのが多いら。早くからそのように入ってきてえいきょうがあったという事だ。そう言う一つとっても、他のものをもってもそうだけど、そういった影響は大きいのかもしれない長い歴史の中で。
- 盆踊りでも三州振草から入って来たと言うし、雪まつりも京都の有名な神社から持ってきて伝えたとかある。
- 新野の子どもたちは、豊根村の小学校と一緒にいると言ったら賛成するのでしょうか。
- しないなあ。
- 私が父兄から話を聞くと、私が思っているより早く統合させたいということが伝わってくるので、世代的に上の人達には反対するとかあるが、現実には子育てをする人たちにとってもう危機感があると思います。
- そりゃそうだに。
- と言うよりも、もう、ああだこうだ言っておれない時期だ。 選択の予知なんかない。
- 20年前にうちの子たちが小学生だった頃は20人いたんですが、それが20年の間に5分の1になっちゃうことが創造できなかった。その頃の中学の先生に「部活はこのまま行くんですか。」と言ったら、これで行くと断言された。現実問題、蓋を開けたら一桁しかないというのは、町長が恐ろしい勢いで減っていると言っていました、それを実感しています。
- それでいても何にも感じんようで、平和ボケしたようでおるがよくわからん。
- 世代的に若い人たちはそんなにぼけていないと思います。
- 危機感のある人達は、阿南町で行動を起こして何か変えようという行動にはつながらないのかね。
- とりあえず自分を守るには手っ取り早く出て行くしかないんじゃないか。
- そりゃいいもの。出て行った方が。
- だいたい検討委員会の中では、子どもの教育のためにはどうすべきかというのを、そこが一番のところで、焦点になると思うんですけど、意見としては統合が多いところなんですよね。
- 反対という言葉は委員の中から出て来ないです。
- 申し訳ありませんが、私は今までこういう場の経験がなくて、過去のいきさつも何にも知らないものですから、失礼なことを言うかもしれませんが、こういう答申だとかあり方検討会だとか、そういうものを作ってしか統合ということができない環境だったのかと思っちゃいました。そういう階段を上っていくようなことをしないとダメなのか、もっと簡単にとは言いませんが、そうだねといえる内容のような気がしてしょうがない。

- それだが今日の新聞に出ていたが、教育長の専決でやった提案が否決されて、また議会でやったら否決されて、その内容が統合をもくろんだのが否決で、町長が提案したらまた否決でひっくり返ったんだに。そういう話しはある。統合をまとめられなかったということ。それで前にやった時も、前の議員の衆もおったんだが、それは喧々囂々でえらいもんだった。それで前の町長も選挙戦になる前にたたかれた。なかなか難しかったのでずっとタブーできとった。それだがタブーもないんな。いい加減にしなけりゃ子どもがダメになっちゃう。
- 持って行き方としては、高校再編も同じでいろんな段階を踏みながら理解してもらって、説明会をやって、意見を聞くしかない。
- それではこれは説明をさせてお聞きすることと、委員の衆の意見をお聞きしたということではないか。ほかにまだご意見があるでしょうか。
- パブリックコメントは、どこか周知してはやっていくことか。
- 持って行き方は、1つとしてパブリックコメントは必要じゃないかという事で、検討委員の中からもでてくるが、こんどの9回目の検討委員会で確認しながらという事でいます。その他に必要な事があれば教育委員の方から意見をいただいて、9回のときの参考にしたい。
- 検討委員会は答申を出したので一旦そこで切れて、教育委員会の方でそのパブリックコメントを何らかの形で、説明会みたいなものをしていくということ。
- そうです。
- 最終的な相談なんだけど、この問題は町長さんから諮問されて、あり方検討委員会を作ってもらって町長に答申すれば、基本的には阿南町の教育の問題だから、阿南町の教育委員会が結論を出したという形にした方がいいのかなと思うがどうか。
- 俺もそう思う。何にしても保育園の問題にしても松川もそうだったが、教育委員会からの答申、それに従って首長は進めたということだ。教育委員会が中心になるその中に、検討委員会がいたということで、結果的に教育委員会が町長にこういうような回答をいただいたということだ。
- 最終的に教育委員がこんな方向でということでもいいのか。(いいと思う。)
- 今、教育長さんが言われたように、教育委員会が方向性を出して進めていくという方向で行くということです。「近隣村とのあり方」については何かご意見ありますか。
- 俺も直接、売木村の村長や天龍村の村長に話をしているんだが、売木村はそれどころじゃなくて走る村でおこられていて、「途中から参画させてもらおう。」と、実際の統合の話を進めて行くという話しをしたので、今の状態では最初から物理的に乗れないと言う。それは今俺が話を出せば、ゴタゴタになっちゃう。あと天龍村と話したんだが、遅かったがやっと第1回目を開いた。考え方は統合ありきということの考え方でなきゃ行けんと言うのはわかるが、今なったばかりで打ち出す訳にはいかんという。泰阜もう一んと言っているし、下條はまだと言うところだし、飯田寄りに行くともまだと言うところがあるが、こっちよりに寄って行くと、未だ今のところ最初からいう訳にもいかないという事で、はっきり言うとそういう色分けだ。ちょっとそこらでパフォーマンス何かやったとか何かで追いつく話ではない。そんな右肩上がりで追いつく話ではない。
- まあできるだけ早くというところでやっていってもらわなければ。
- そうな。被害者が出るに。子どもには選択する余地がない。大人の責任だ。それで立派な大人になりなさいと言っても無理だ。

- ではとりあえず阿南町ということですね。阿南町でとりあえず実績を出して、途中から載ってくるのを待つということですね。
- 今の裏にあるペースで行けるかということが苦にしているが、というのは何処か 1 村が 1 中なりに加わるとまた障害が出てくるところからか、一番いいのが天龍、平岡の変わり様は激しい。昔は明るくてカンカンで都会のようだったのが、今はシャッターを閉めた店だらけになった。電車をとってかわって車社会になった。
- こんな世の中が来るとは誰も想像できなかったんだ。平岡ばかりでなく遠山でも同じだ。
- 近隣村とのあり方については、南部地区の教育委員会の中でも協議をされておると言うことで、最新の売木だとか天龍だとかの動向は今の町長の方から話がありましたので、ご承知おきいただきたいと思います。子どものためにどういう状況がいいのかというのを考えれば、もう少し保護者からも声を大きく上げてもらうような動きも必要なるかなと思っています。この検討委員会の方だけの意見でなくて、PTAの方々のこう考えているといううねりが出て来ないと、なかなか議会の中でもいろいろな意見がありますので、そうした意見が大事なのかなと個人的に思います。声の大きい人たちに言われちゃうと何にも言えなくなるので、PTAがまとまって大きく言うくらいでないとだめなのかなと思います。
- それでは次に 2020 年に向けた ICT 教育環境のあり方の方へ移りたいと思います。
- ICT の説明について何度かやらせてもらっていますが、別紙に資料を付けさせていただいておりますので、係長の方から申し上げます。
- <2018 年度以降の学校における ICT 環境の整備方針のポイントの資料に基づいて説明>
- これは国家の命令で 5 年計画でやれということなんだ。遅れてはいかんし。前から言っているんだが。喬木第一第二を見たときに、2 校だけだから連絡でできると言ったが、これ専用の先生を雇わないと思うように進まないという話しがこの時見解で、それは無理なんだ、先生はたくさん勉強をしてきてはいるが、こんなことを専門に勉強してきているのはそんなにいるわけじゃ無いから、また高齢の先生もいるからえらい迷惑になる。そうするとこうしてお金をかけた分を、本来の目的たるこれを使った人間性の形成に至らぬことも出てくるとした、喬木の村長の言うとおりでと思った。だからその先生を確保するということをしないと、おらほは学校数が多いから、喬木第一第二が 1 人で賄うという話しではなくなっちゃう。だけどそれをやらんとこれが生きてこない。そこのところを教育委員会がどう考えるかだ。前から言っている問題。そうするとそれ以上にお金がいるんだに。年間何千万円とか言っとった。NEC から派遣された先生が来ておった。そういうのはどうするんな。
- 環境整備のポイントというところの中にある、IT 支援員と言うのが中程にあるんですが、これが指導をするという支援員に当るんですけど。
- こんどそれを用意しんならんということだら。
- 検討委員会をやっていく中でも、機器の話だけではなくて、そういう支援員をぜひ雇ってほしいという先生方からの要望があります。
- それだがいつからどういうふうになるかは、どういう計画になっておるのか。教育委員会としてはどう考えているのか。
- 来年度の当初予算にはお願いがしてあるんだけど、始まる前までにいろんな研修・講習的なものを開いていって、できるだけ 32 年までにはできるような研修会・講習会を整えていくような予算をとってもらっていることと、県なり飯伊の研修会・講習会をやっ、実際 32 年度以

降は1人なり2人の支援員などを入れて運営をしていく。2・3年かかるかな。

- そういうことだと思う。俺がもし教諭だったら、そうでなくても長時間労働で休みもなく問題になっているのに、そうしてこんなものの研修会に時間をとられて、余分に給与をくれる訳もなくまた勉強をしんならん。そうしといてそれなりに教えんならんは無理な話だ。
だけどそれなりの先生を置かにゃならん。そうしないとういうものを使ってそれなりの発展性を求めていくことにはならんと思う。おらほのように学校の多い所は1人じゃ賄えん。そうするとそういう先生が何人もいる。
- そのことはきちっとしていかなと、またそこでこの部分の国が求めているものが仕上がっていかんくなる。
- 結局、いままでのパソコン教室というのは何か成果が出たのか。(あまり出ていない。)
そうすると二の舞になりそうな気がする。
パソコンのやつも年間1000万で5年間やってきたが、それが成果として子どもたちに出
とるのか、検証も終わらずにもうこれが始まっている。
- 先生たちがそれに振り回されて、1にち1コマって無理だ。アナログでやった方がいいとい
うのが絶対あるのに、これをやりなさいとなる。さっき言ったように指導する先生がいないか
ら、スマホいじれるのとは訳が違うから、電源どこかでそれだけで5分とか10分過ぎちゃ
うんです。だから振り回される心配の方が多い。実際、喬木にいる年齢の高い先生方は苦勞を
しているという。現実苦勞をしている。
- 子どもたちがスマホを持っていて使用する頻度と、私たちが使用する頻度と全然違う。その
レベルだ。私たちは100ある内の1つか2つの機能を使うだけなのに、子どもたちは駆使し
て使っている。その違いである。
- それでは、問題ばかりで解決はできませんが、意見交換を閉じさせてもらって、次に4の懇
談をお願いします。平成31年度の予算編成についての要望があるようですので、教育長さん
をお願いします。
- <平成31年度予算編成について(お願い)を朗読し、お願いをする。>

6 閉会

- 松澤総務課長

それでは、長時間にわたりご検討をいただきましてありがとうございました。統合問題・教育問題は、喫緊の急を要する事が多くございまして、31年度の予算編成も大変とは思いますが、いろいろな面でご協議・ご検討して行っていただければと思いますので、又よろしくをお願いします。次回は来年度となりますのでお願いします。それではこれで終わります。